

原発・核兵器ゼロに

被災地 福島・楡葉で集会

核兵器の廃絶を求め
る原発被災地集会が6
日、福島県楡葉町の宝
鏡寺で行われました。
「非核の火」を灯（と
も）す会の主催。

宝鏡寺には今年3月
11日、「ヒロシマ・ナ
ガサキ・ビキニ・フク
シマを結ぶ『非核の
火』が灯されました。
尺八奏者の橋梁盟（た

ちばな・りょうめい）
さんが「アメイジング
・グレイス」「手向け」
「芭蕉布（ばしょう
ふ）」を演奏。幽玄で
深遠な音色が森の中に
響きました。

灯す会共同代表の早
川篤雄・宝鏡寺住職が
「私の願い」と題して
講話。伊東達也共同代
表が「10年目の原発被

災地の状況」をテーマ
に報告しました。

早川さんは、東京の
上野の森で30年間灯さ
れてきた「広島・長崎
の火」がフクシマの地

原発被災地集会で午前8時15分に黙とうする参加者 11日、宝鏡寺境内



に受け継がれ、灯し続けられることになった経緯を語りました。

「この火がフクシマの希望の未来、全世界の核兵器廃絶、原発ゼロ、世界平和実現のために世代を超えて人々の心に灯し続けられることを祈願しております」

す」と話しました。

伊東さんは「フクシマは処理することが困難な『三つの難事』に直面している」ことを指摘。廃炉事業の困難さを報告しました。

いわき市から来た小学校6年生の熊谷灯（あかり）さんは「原発と核兵器はなくしてほしい。原発事故が起きた時は1歳。平和な社会になってほしい」と感想を話し、東京・台東区の伊藤のぶ子曰本共産党区議は『「広島・長崎の火」がしっかりと灯されていることが分かり、良かった」と語っていました。



戦後 76 年

広島被爆者に思いはせ 核廃絶と恒久平和祈る 檜葉・宝鏡寺で追悼式 / 福島

毎日新聞 2021/8/7 地方版



原爆投下時刻の午前 8 時 15 分に合わせて黙とうする参列者たち = 福島県檜葉町の宝鏡寺で 2021 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、柿沼秀行撮影

米軍による原爆投下から 76 回目となる広島の「原爆の日」を迎えた 6 日、福島第 1 原発事故で被災した檜葉町の宝鏡寺（早川篤雄住職）でも追悼の祈りをささげる催しが開かれた。境内には今年 3 月 11 日に建立されたモニュメントがあり、県内外から参列した約 50 人が核兵器の廃絶と恒久平和を祈った。

モニュメントには、広島原爆に遭った家屋で燃えていた炎を代々引き継いだ火が「広島・長崎の火」としてともされている。これまでは東京都台東区の上野東照宮にあったが、昨年撤去が決定。移設先を探していることを早川住職が知り、「広島・長崎の原爆の被害者の苦しみは、福島原発事故の被災者の苦しみに共通している」として受け入れたという。

この日の催しは早川住職らが共同代表を務める市民団体「『非核の火』を灯（とも）す会」が主催した。参列者は広島市の平和記念式典のテレビ中継に合わせ、原爆投下時刻の午前 8 時 15 分に黙とうした。埼玉県草加市から参加した斉藤節子さん（80）は激戦地だった硫黄島（東京都小笠原村）で父

が戦死したといい、「手を合わせながら涙が出た。戦争は絶対にだめです」と話していた。

早川住職は「恐ろしい兵器を作るのも人間なら、心から平和を願うのも人間。大災害に遭った人たちは皆、『こんなことは私で最後にしてほしい』と言う。その思いを大事にしたい」と話していた。【柿沼秀行】

<ふくしまの10年・科学者 未来への伝言>

教訓「数世紀は伝える」

2021年3月16日 07時51分 東京新聞



「原発悔恨・伝言の碑」を揭幕する安齋育郎さん（右）＝11日、福島県楡葉町の宝鏡寺で

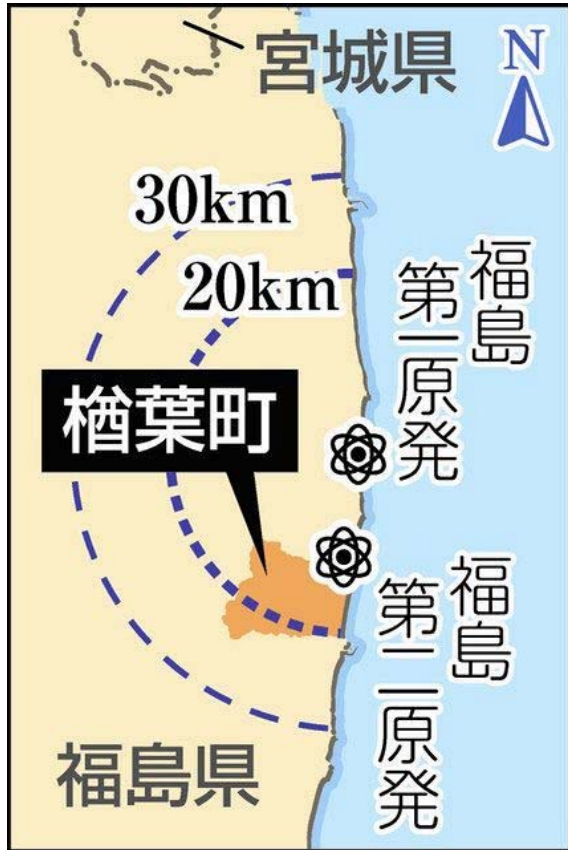
東日本大震災から十年の十一日午後、楡葉町の宝鏡寺で真新しい碑が人々に披露された。「電力企業と国家の傲岸（ごうがん）に立ち向かって40年、力及ばず」で始まる「原発悔恨・伝言の碑」。放射線防護学が専門で立命館大名誉教授の安齋育郎（いくろう）さん（80）と同寺住職の早川篤雄さん（81）が建てた。

仕事も違い、住所も離れた二人を結び付けたのは原発だった。一九七三年、東京電力福島第二原発（楡葉町、富岡町）の建設反対運動で知り合った。

碑文を書いたのは安齋さん。「反対したが、防げなかった。こんな大事故を起こしてしまったことの悔恨がある。この教訓を少なくとも数世紀は伝えたい」という。

安齋さんは東京生まれだが、戦時中の四四年から四年間、福島県二本松市に縁故疎開していた。福島は第二の故郷でもある。

二〇一一年四月、七十一歳の誕生日に早川住職が運転する車で、いわき市から浪江町まで放射線量の調査をした。毎時一〇〇マイクロシーベルトという高線量の場所もあった。人の姿が見えない一方、桜や菜の花、コブシはきれいに咲いていた。



「子どもの時に見た風景と同じ。懐かしさを感じた」という。

碑には「故郷の過去・現在・未来を奪った。」と記した。

安齋さんは原発事故で「専門家、科学に対する信頼が薄れた」と考えている。

科学の信が問われたことが過去にもある。鹿児島県の桜島で起きた大正噴火（一九一四年）。桜島の村役場からの問い合わせに鹿児島測候所が「噴火無し」と答えたため、一部の人々が逃げ遅れる事態となり、犠牲者が出た。桜島には「科学不信の碑」と呼ばれる碑が立っている。

（井上能行・初代福島特別支局長が担当します）

◇ご意見は fukushima10@tokyo-np.co.jp へ

境内で学ぶ原発事故の教訓

住職が私費で「伝言館」開設

関根慎一 2021年3月18日 14時00分 朝日新聞



事故を止められなかった無念の思いを「原発悔恨・伝言の碑」に刻んだ。伝言館と碑を前に、早川篤雄住職（中央）と安齋育郎氏（右） =11日、福島県楡葉町大谷

福島県楡葉町大谷の宝鏡寺境内に11日、原発事故の教訓を伝える施設「伝言館」が開館した。在野の目線で事故の被害や教訓を伝えるのが特徴。

式典に集まった130人が「原子力被害をもう出さない」と誓い合った。

同館は木造2層建て。長年、原発反対運動に取り組んできた「館長」の早川篤雄住職が賠償金など私費を投じて建設した。1階には「エネルギー・アレルギー」と原発推進を謳（うた）う旧科学技術庁のポスターや除染の写真、汚染水や震災関連死についての説明パネルなど約100点を展示する。

地階では広島、長崎の原爆被害に関する資料、米国の水爆実験で被曝（ひばく）した第五福竜丸に降った「死の灰」などを展示。同館脇には約30年間、東京の上野東照宮境内で灯（とも）されてきた「非核の火」も移した。

早川さんは「データの捏造（ねつぞう）や改ざん、事故隠しを続けてきた。起きて当たり前事故だった」と強調。ともに活動してきた立命館大学の安齋育郎名誉教授も京都から駆け付け「ホームページを作り、世界にも発信したい」。広島、長崎両市長もメッセージを寄せた。

入館料は100円（大学生以下無料）。（関根慎一）

福島にともる「非核の火」 原爆、ビキニの資料館も一東 日本大震災 10年

2021年03月11日07時08分 時事通信社



11日の「非核の火」点火式の準備をする宝鏡寺住職の早川篤雄さん＝10日午後、福島県楢葉町

核兵器廃絶を祈り、東京・上野で30年にわたってともされていた「広島・長崎の火」が、東京電力福島第1原発事故の教訓を合わせて伝える「非核の火」として福島県楢葉町に移され、東日本大震災発生当日の11日午後、点火式が行われる。

原発事故、復興に課題 処理水問題積み残し一改定基本方針・東日本大震災10年

「広島・長崎の火」は、原爆投下後の広島から持ち帰られ、福岡県八女市で保管されていた残り火に、長崎の被爆瓦を使っておこした火を合わせたもの。1990年から上野東照宮境内でともされてきたが、継続的な管理が難しくなり、楢葉町にある宝鏡寺が引き継ぐことになった。

移設を機に「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマを結ぶ『非核の火』」と名を変える。「環境や命、ふるさとを奪う核被害は許さない」という住職の早川篤雄さん（81）の思いからだ。上野で火を管理していた小野寺利孝さん（80）は「新たな誓いを通じ、福島の方々とつながる。恒久的にともしてほしい」と託す。

「平和な未来は歴史を知ることから始まる」（早川さん）と、資料館も併設する。原発事故の教訓を中心に、原爆被害や第五福竜丸などが被ばくしたビキニ環礁での水爆実験の資料などを展示する予定だ。

非核の火の隣には、事故前から原発の安全対策を訴えていた早川さんらが「事故を防げなかった悔い」を刻んだ石碑も並ぶ。早川さんは「二度と惨禍を起こしてはならない。伝言のともしびとしたい」と話している。

〈あの日から 東日本大震災 10年〉

「広島・長崎の火」福島に灯る 上野東照宮から託された非核の思い

2021年3月11日 20時58分 東京新聞

核廃絶を願って上野東照宮（東京都台東区）で約30年間灯されてきた「広島・長崎の火」が11日、福島県楡葉町の宝鏡寺に移設された。午後2時からの点火式で、関係者らが核の被害が繰り返されないよう願いを込めた。



「非核の火」の前であいさつする宝鏡寺の早川篤雄住職＝福島県楡葉町で

「広島・長崎の火」は焼け野原となった広島で兵士が採取した火と、長崎で焼け残った瓦から採った火を合わせてあり、モニュメントの中で灯されていた。上野東照宮から求められた管理団体が、原発事故の避難者訴訟で原告団長を務める宝鏡寺住職の早川篤雄さん（81）に依頼し実現。

点火式で、新たな管理団体「『非核の火』を灯す会」の伊東達也共同代表（79）が「核兵器も原発も人間が作った。だから、人間の力でなくすことができる」と強調。早川さんは「『原子力の平和利用』の齟齬がこの大惨事。原発の廃炉作業は難航し、福島の核災害は今後ますます深刻になっていくことを忘れないでほしい」と訴えた。（小野沢健太）